

I. 論文の主題と構成

夏吾太氏が提出した博士論文（以下「本論文」）は、日本語および英語により執筆されており、英文タイトルは『Essays on econometric analysis of agri-environmental payment programs in Japan』、日本語タイトルは『日本の農業直接支払制度に関する計量経済分析』である。論文の具体的章立ては、以下の6章からなっている。

- Chapter 1: The Current Situation Issues of Agri-Environmental Program
- Chapter 2: Prefectural Panel-data Analysis of the Factors in the Adoption of the Agri-Environmental Direct-Payment Program
- Chapter 3: Farmers Preferences for Advanced Conservation Practices in Hakui Region of Japan: A Case Study of the Natural Farming
- Chapter 4: An Analysis of Consumers Preference for the Eco-friendly Agricultural Products: A Case Study of the Natural Farming Products
- Chapter 5: Consumer Willingness to Pay for Environmentally Friendly Farming Products
- Chapter 6: Conclusions and Implications

II. 論文の概要

本論文は日本の農業環境直接支払（以下「直接支払」）が農家・消費者に与える影響について、経済学的な視点から定量的な分析をおこなったものである。直接支払とは、環境に配慮した農業（以下「保全型農業」）に取り組む農家に対して、取組内容と面積に応じて助成金を支給する制度の総称である。現在、全国レベルでは「環境保全型農業直接支払交付金」が全県で実施されており、地域レベルではいくつか存在するが、例えば石川県羽咋市では自然栽培に取り組む農家に対する助成制度として「羽咋市環境保全型農業直接支援対策事業」が実施されている。

本論文では、全国レベルの取組における普及水準の決定要因を2章で、また地域レベルの取組として羽咋市における助成制度における農家の採択要因を3章で分析している。これが生産者による供給側の分析であるのに対し、4章および5章では羽咋市の取組農家により生産される自然栽培農産物に対する、消費者の認識や購買行動について分析している。2章は土木学会論文集に掲載済みであり、3-5章もそれぞれ国内学会などで報告を実施済みであり、国際ジャーナルへの投稿に向けて鋭意作業中である。

III. 論文の評価

論文審査委員会では、本論文の評価について所定の6項目に従い以下の通り検討をおこなった。

(1) 論文テーマ

直接支払は農地の生態系サービスを維持している上で重要な農業環境政策であるが、その普及は全国的にみて不十分な水準であり、普及を加速させるには農家・消費者それぞれの視点から多面的に分析することが必要であり、学術・実務の両面で重要な問いである。現状では国内における関連研究は限定的であり、実務でも有効な施策が打ち出せていない中、本論文は新たな普及に向けた生産者・消費者それぞれの知見を創出することを目指すものである。こうした背景を踏まえてテーマが設定されており、研究の社会的意義も明確に意識されていることから「優」とした。

(2) 論文構成

本論文では直接支払の普及要因を全国、地域それぞれについて個別に分析するとともに、取組農家により市場に供給される保全型農産物に対する消費者の受容性を 2 章に渡り詳細に分析している。全体のテーマに沿って各章において個別の問題・仮説が適切に設定されており、それらを受けて一貫した論述が展開され、学術的にも実務的にも明確な形で結論が導出されていると認められる。そのため本項目の評価を「優」とした。

(3) 研究方法

本論文の 2 章から 5 章では、直接支払の普及要因および保全型農産物に対する消費者の選好について、それぞれ問題設定に応じた適切な分析およびデータ収集方法が選択されている。特に 3, 4, 5 章で筆者が実施・収集したアンケートデータは独自性が高く学術・実務の両面で貴重なものであり、本論文の独自性を高める大きな要因にもなっている。分析結果の解釈についても妥当で学術的に高い水準と認められることから「優」とした。

(4) 先行研究や関連研究に関する理解：それらが幅広く十分に渉猟され、的確に理解されているか

本論文では農業分野における環境直接支払制度について、国内外の事例について詳しく触れるとともに、関連する先行研究についても丹念にレビューされている。その上で本論文の位置付けを示すとともに、新たな知見を創出する学術的な意義についても触れており、読者が重要性を的確に理解できるよう工夫されている。そのため本項目の評価を「優」とした。

(5) オリジナリティ

本論文は環境直接支払の普及について、生産者・消費者の両面からの分析をおこない、それぞれに存在する課題を踏まえつつ、分析結果の考察から具体的な政策提言に踏み込んでいる。既存研究の大半は生産者・消費者どちらかの分析に終始する中、本論文は両面からの分析を試みたオリジナリティの非常に高い内容である。学会報告などでも高い評価を受けており、学術・実務に対する貢献が十分に期待されることから評価を「優」とした。

(6) 体裁

引用等は適切に処理され、学術論文としての体裁は概ね整っているものの、補論において句読点の表記が異なっているなど、修正すべき点が若干ながら認められることから、本項目の評価は「良」とした。

IV. 結論

以上のように、本論文の評価は6項目中5項目で「優」であり、「良」の一項目も体裁を修正することで「優」の水準に達することが見込まれている。全体として学術的に十分な水準に達しており、社会への実務的な貢献も大いに期待される結果と認められる。そのため、審査委員全員一致で本論文を「合格」とすることとした。